

インドネシア バタム市 市長 来日

2009年10月5日バタム市長 Ahmad Dahlan (アハマッド・ダーラン) 氏他バタム市関係者2名の方が来日し、NPO法人ライオンズの森プロジェクトの事務所を訪問してくださいました。



インドネシア バタム市長



インドネシアのバタム市はシンガポールから20キロ南に位置する都市であり日本の企業が多く進出している地域でもあります。

当ライオンズの森プロジェクトでは、そのバタム市のガラン島干潟300haを対象に計画的に植林して、マングローブの森を作っていく予定です。

今年も、2009年3月20日バタム市のガラン島ラメイ岬にてマングローブ植林ツアーを行い、マングローブ：オオバヒルギ800本、ヒルギダマシ800本の植林を行いました。

(ツアーの様様 http://blogs.yahoo.co.jp/ayomenanam_bakau/26861851.html)

(ツアー後の視察レポート <http://lions-mori.net/ja/2009.06.25genbasisatu.pdf>)

マングローブは、熱帯・亜熱帯地域において淡水と海水が混じり合う汽水域に生息する植物群の総称で、CO₂吸収能力が高く、地球温暖化防止に貢献するばかりか、水産資源(エビ、カニ、小魚)を育てる苗床となります。

海水の中に根を張って生息しており、その複雑な根の形が、水質浄化作用を持ち、そのため、魚介類の生育地となるだけでなく、水流を穏やかにし、土壌を豊かにしてくれます。



さらには、マングローブの森ができれば、津波等の自然被害から住民を守る自然の防波堤となりますし、又、植林作業やメンテナンスは現地雇用の機会を増やすなど、地元住民の生活にも大きく貢献できます。

Batam市長は、Batam市やBatamのライオンズクラブとも協同で植林事業を展開している当ライオンズの森プロジェクトに、今後についてなどの意見交換もかねて、来てくださったのでした。



Batam市長、理事長：山崎広太郎へ記念品贈呈の写真

今回のBatam市長の訪問のおかげで、Batam市、植林地周辺の住民など相互の連帯関係をさらに深めて、Batamの干潟に青々としたマングローブの森が広がる事を目指して活動していく事を、話し合う素晴らしい機会を得る事ができました。

これからもますます、地球温暖化防止や地域活性へ貢献できるよう、企業や一般方々の協力も仰ぎつつ、活動を通じて、環境保全と周辺地域の活性化や援助に貢献していけるよう植林事業を展開してまいりたいと思います。皆さまの応援もお待ちしております。